

被疑者 衣 寅 巳

供述調書

住居

鳳至郡能都町中津田六三

職業

旅館仲居

電話六二局一三六八番

氏名

衣 寅 巳 代 入

昭和四年一月九日生（六三歳）

右の者は、平成四年四月三日金沢西警察署において、本職に対し、任意次のとおり供述した。

私は今言ふところに住み
輪島市にある

輪島観光ホテル

三川長峰 冥月氏

ねふた湯 白れ

1.
とう 旅館に 夢めて ありはす。
ところ

私の 長男 ふあう

之 黄野 あり 樹 か

他人様 の 女 の う を 殴る なむ

一 怪我を 負わ せ た こと

聲を 怒りに 連 ね させ こと

の ぶ が

この ち 樹 の ち い ところ や 怪 路

等 に して お 夢 ね こと か

三

お節——です。

え、私が

香樹が逮捕されている

ということを知るのは

昨日の午後九時ころ

です。

勤めが終つて家に帰ると

香樹の勤め先へある

市場急配の

社長のお父さんから電話が

ありはじめて知ったのです。

それで

驚いて——い、とりあえず

山口県警察明紙

その事情と

相手方の謝罪とに思ひ

今朝家から来てゐた

という訳です。

木下樹は

私と之夫留まるとの間に

生まれたひとり子です。

夫留まは

木下樹が満三歳の時に

亡くなくなつてしまひ

以後私一人の手で育て

てゐました。

木下樹は

地元の小学校及び中学校を
卒業後

珠洲郡内西町にあり

県立石川北産高小分校

に入學し、その後は

この高校を

一年生で終り頃に中退

したと云ふ。

退學の理由として

遅刻や服装を注意

されたことを腹を立つ

自分の方からヤメたはず

と云ふ。

五 高 校 退 学 後 は

金沢に行き

カソリニスタニトの香負

とーと働いたのさす

その頃 香樹は

友達と一組になるて

ニニサーと遊ぶ

金沢中警の警察署に捕まり

一時 少年鑑別所へ

入っている時もあるのさす。

その後

地元の中学から来た帰て

働いてみたり。 したるる

の方もも働いて出たりしては
 いすのふすか
 去年に現在の勤務先である
 市場急配に
 トウロの建機として働いて
 いすのふすか
 今の樹の仕事を関係にしては
 私が探して就かせる
 というふすかはなく
 今も自分を見つけてきて
 働いていすのふすか
 いすのふすか
 私のふすかは

本署から電話が来、不妊
か、あるいは帰省して来、不妊
位に

仕事の内容等を聞く位
する。

この本は

昭和六十年の二一歳の時

に結婚し、又侯も二人を儲け

ます。

現在は離婚し一人身

です。

当時の結婚相手は

加賀市潮津町の未年

とう
女性
に
了

101

さ
な

女
か

木
樹
に
肉
を
乙

サウ金平から沢山の

倍金額に
つくと
いふた

2
d
1
2
2

昨日、
一、
交際
離婚
した

の

その
は
も
う
二
人
の
子
供
も
い
て

二
人
と
も
男
α
子
子
子
子
子

見月と倒る月

次男を
ての
へ
へ
人か
引
と
了

のるす。

うーこ半年程一ノ頃になつて

女の方から

又侯が可愛相なから

と言ひ出し

ある樹と後縁し再々一縁

に住むこととす、そのさすか

ある樹ト言ひせれば

女の浪費ス辭は治さまい

といつゝこころ

昨午の夏頃

また離れし

二人の又侯はよめ女の人か

た、

引きこつて育つてゐるはずなのですよ。
 なお、香樹の本籍が
 能登郡少から金沢に
 移つてゐる
 ことと、ついでに、
 香樹の父が
 香樹の父の親の方から
 本籍を移してほい
 と頼まれ
 香樹の本籍も役場から
 貰つてゐて送つた
 のですよ。
 次に香樹の性格ですが

三川 警察長 氏

負けん氣の強い子に

根性強く、一言いふと

一歩も引かない

こつ強情なところがある。

小さい頃より

あまり泣く顔を見せる事

も無い。

こつ。

八.
この樹は

三歳位の頃赤新に

かかり、幼少に樹に入腹して

いふことがあつた。

以後大なる氣や怪我は

[illegible]

精神科
α
お医者さん

診 察 手 帳

精神病院 1
入院 1
入院 2

とろろどろも無

22

九
秀樹の
入園係
乙
成

い
く
さ
食
の
お
金
を
費
い

4 1 2 3 4 5 6

今く知る

親にも送り方じゃないよ

71

三石川具峯客月氏

746

と電話
少一
あ、金を
さかす

重体になるゝゝ他人様の
女の人を殴るゝゝ他人様の
を責めず

とくに

本
当
に
敢
て
い
ろ
の
お

今、
南
に
ま
す

秀樹が怪我を負わせた
女の人ば

金沢市泉丘

文

ふり

朱子樹のうゝ安藤之

交際と迫つてゐたものの
断わり続けられなくて
腹を立ち股をむく

152 南子

実はこの警察署に来る前
 に安藤さん入院して
 母を病院に行っていました

三石川尋常女学校

のこす。

本人えは

面会謝絶の顔も見ること

はひきませんと云ふが

お母さんと会つてくうす。

お母えは

私に對し、赤樹を許すこと

はひきません

と言ひ

元の体に戻してくれ、

変われるものなら私が変わって

やりたい

と泣きながら言われたのです。

私と一とに 当然のことなるが
 何と云ふ解も云うが
 したに 謝るのみ
 した。
 何と云う一と 糸の樹が
 弱い女性を
 意識するところまで
 段々スリースの
 何と云う一と や、したのか 全く
 わかりません。
 相手の中 藤えとは
 親類縁者などありません
 糸の樹の親と一と

ふさる限りぬことはしてあげ
たいと思つてゐます。

大それたことをやゝしたる樹は
ありふすがゆゑかひと
ようくお愛しいです。

玄野正代子

のこあり針をいし読み聞かせるところ
のよいことを申し立て署名指印
した。

新刊日

金沢市教育委員会

司法警察員

警察部長

村之康夫